

「新機能、使ってる？」 ウィンドウズの便利な機能を紹介



中小企業診断士
米倉 博彦

- ウィンドウズ95が職場に導入されたのは1995年からだから、もう20年以上前のことだ。数年おきに更新されてきたウィンドウズの最新版はウィンドウズ10(テン)。新機能も増えているけれど、昔から使っていた人ほどそれに気づかず、以前と同じままの、今となっては非効率な操作を続けている。
- 今回はウィンドウズの便利な新機能をいくつか紹介する。

1. 仮想デスクトップ

複数の仕事を同時にやらなければいけない時がある。

- ・ A社とメールやSNSでやりとりしつつ
- ・ B社とC社の似通った書類を作成し
- ・ D社のファイルをまとめる

忙しい時期には、普通にある職場風景だと思う。

会社から支給されたパソコン。

最近はデスクトップではなく、画面の小さなノートPCであることも多い。

複数の作業を同時にこなそうと思えば、画面上にたくさんのアプリケーションを開いておくことになる。作業を切り替える度に、ウィンドウを最大化したり最小化したり、大きさを変えたり並び替えたり。

小さな画面のなかでやりくりするのは大変だ。

モニターが複数あればいいのに！

たとえば3つあれば、1つめはA社の仕事、2つめはB社、3つめはC社というように画面毎に仕事を分けて、ウィンドウを開きっぱなしにできる。

ただ、スペースやコストの問題がある。机の上は狭くなるし、会社がモニタの追加予算を出してくれるはずもない。

余談だけれど、筆者はサラリーマン時代、自腹で大型のモニタを買って会社に持ち込んでいた。いまでも職場では複数のモニタを使っている。(図1)



図1：筆者の職場環境。一台のパソコンに複数のモニタを接続している。

それでも、外出先ではノートパソコンで仕事をしなければならない。ノートパソコンの画面は狭く、デスクトップに比べて使いづらい。かといって大型のモニタを持ち歩くわけにもいかない。

そんなときは、仮想デスクトップ機能を活用しよう。

この機能はWindows10から新たに追加された。Windows10より前のOSを使っている人は、「Dexpot^{*1}」などの同じような機能を実現するアプリケーションをインストールするといい。

それでは仮想デスクトップを使ってみる。

手順1：画面左下にある、四角い箱が三つならんだアイコンをクリックする。(図2)

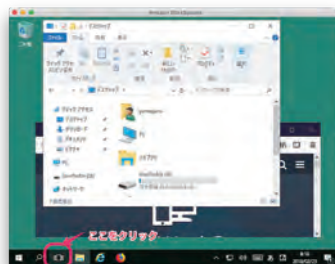


図2：開いているウィンドウの一覧を呼び出す

手順2：画面が少し暗くなり、開いているウィンドウの一覧が表示される。ここで右下の+ボタンをクリックする。(図3)

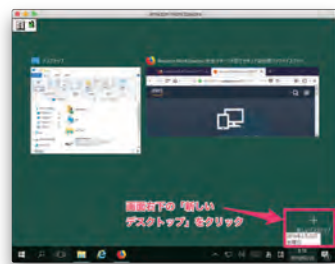


図3：デスクトップの追加

手順3：デスクトップが増える。+ボタンを押せばどんどん増える。クリックすれば切替えが可能。(図4)



図4：デスクトップを追加

仮想デスクトップ間の移動は、Ctrl(コントロール)キーとウィンドウズキー、矢印キーの左右でも行うことができる。

この機能を使い、デスクトップ1は例えばメール作業用、デスクトップ2はA社の資料作成用……と、まるで複数のモニタを同時に使っているかのように作業することができる。

一つの画面なら、作業を切り替えるたびにウィンドウを入れ替えていたのが、デスクトップの移動だけでスムーズな切り替えが可能になる。(図5)

使いこなすと本当に便利な機能なので、まずは試してみてもいい？

マックにも「ミッションコントロール」と呼ばれる同様の機能がある。



図5：仮想デスクトップを使えば、マルチモニタと同じ効果が実現できる



2. クリップボード履歴管理アプリ「clcl」

資料を作成する際、いちばんよく使うのはコピーと貼り付けではないだろうか。右クリックで選択したり、CtrlキーとC、Vキーの同時押しといったショートカットを使う。

たくさんの情報をコピー、貼り付けで別の文書に移しているのはけっこう手間がかかる。例えば、IDとパスワードを記載したメモ帳からコピーし、ブラウザのログイン画面にIDとパスワードを貼り付ける場合を考えてみよう。この場合、アプリケーションを切り替えながらコピー・貼り付けを繰り返すことになる。(図6)

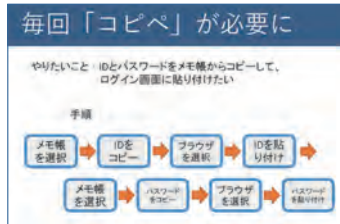


図6：コピペの繰り返しが手間

IDとパスワードだけならそれほど手間ではないかもしれない。しかし、これが10個20個、100個になると憂うつになる。

標準機能ではないのだけれど、「CLCL^{※2}」という無料ソフトを使えばこの手間を回避できる。(マックの場合は、Clipy^{※3}という同じような機能を持つソフトがあり、こちらも無料だ)

インストール後、AltキーとCキーを同時にクリックすると、コピーの履歴が表示されるのでそこから選択する。(図7、図8)

一気に文字をコピーして、他のアプリに貼り付けるので、ウィンドウの切り替え作業を一回に短縮できる。(図9)



図7：Alt+Cでコピーの履歴から選択できる

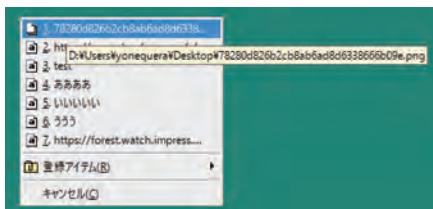


図8：画像などのファイルも対象になる

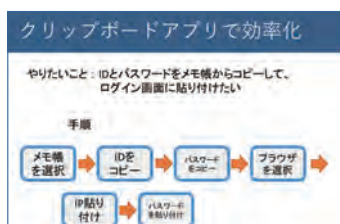


図9：アプリを入れて手間を減らす

3. 画面上でウィンドウを左右にならべる

PDFファイルを見ながら、必要な箇所だけをワードに転記する作業や、二つのファイルを比較する際などに役に立つ機能。

ウィンドウの上部をクリックしたまま画面の左端(または右端)までマウスを持っていくと、画面の左半分(または右半分)に枠線が現れる(図10)。



図10：ウィンドウを左端までドラッグすると枠線が現れる

この状態でクリックを止めれば、ウィンドウの大きさがちょうど画面の半分になる。反対側も同じ作業をやって、画面の半分ずつにウィンドウの大きさをそろえることができる(図11)。

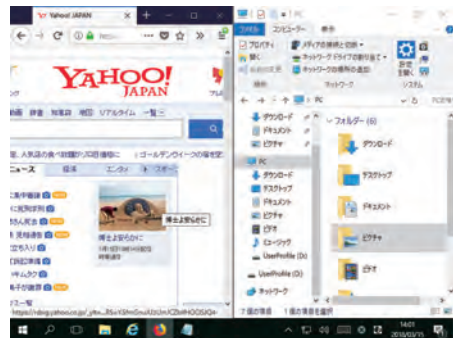


図11：画面を半分ずつ使う

■まとめ：さいなことの積み重ね

今回紹介した機能は、ひとつひとつを見れば些細なことかもしれない。

しかし、一日8時間、年間250日前後の仕事時間のなかで、これら些細な作業の積み重ねが大きな時間の余裕を生み出す。

他にも日々の作業を楽にする様々な標準機能や、無料有料問わずいろいろなアプリケーションがある。うまく活用してほしい。

コンピュータープログラマー業界に「DRY」という言葉がある。Don't repeat yourselfの略で、「同じことを繰り返すな」という意味だ。

同じ作業を延々と繰り返すことのないよう、頭のいい先人がいろいろな仕組みを作ってくれている。使わなければならない。

※1 Dexpot <http://dexpot.de/?id=download>

※2 CLCL <https://forest.watch.impress.co.jp/library/software/clcl/>

※3 Clipy <https://clipy-app.com>